まくはり
Baytown News
第 219 号（2015 年 8 月 1 日号）
幕張ベイタウンニュース編集局
http://www.baytown-news.net/

20 年目の夏休みラジオ体操

毎年恒例、ベイタウンのラジオ体操。ベイタウンニュースで夏の名物？だというのは知っていましたが、参加したことはありませんでした。子どもが今年から小学生になったことを機に初参加。夏休みが始まって 3 日目の海の日（7 月 20 日）がベイタウンラジオ体操の初日、親子でいつもより早起きをして行ってきました。 【斎田】

早朝とは思えない強い日差しの中、初日の会場、海浜打瀬小に向かいます。約 3 〇年前、張り切って近所の空地に通ったのを思い出します。

開始時間より早めに校庭に入ると…、あ、いるいる！校舎の下、校庭より高い位置にはゼッケンをつけて練習している小学生の姿が。「ラジオ体操子どもリーダー」の 6 年生の皆さんです。ベイタウンのラジオ体操では、子どもリーダーが体操のお手本だけでなく、準備や片付け、参加者へのスタンプを押すなど毎年活躍していると聞いていました。

ベイタウンの小学校 3 校から希望者をつのり、事前に 4 回、学校の始まる前に朝 6 時から練習してきたそうです。今年は打瀬小 4 名、美浜打瀬小 5 名、海浜打瀬小 10 名、計 19 名の 6 年生が立候補し活動しています。

この日は初日とあり、子どもリーダーの皆さんもどことなく緊張の様子。指導する鎌田さんはじめ、見守る大人たちの表情も真剣です。

さあそろそろ 6 時半、振り返ると校庭に集まった参加者の人数にびっくり。まさに子どもの頃テレビ中継で見たラジオ体操中継の光景でした。最前列に 10 個ほど目印のコーンがあり、その後ろに列ができ校庭の端までびっしりです。祝日ということで、お父さんお母さんの姿もあり、家族で体操する姿が多くみられました。この日で参加者 600 人程とのこと、それでもいつもより少ないそうですが規模の大きさに圧倒されました。

体操が終わり、リーダーからスタンプを押してもらいわが子は大満足。明らかに体操よりスタンプが目的という様子…。一方緊張と暑さで汗だくのリーダー達は集合して、今日の動きについて指導を受け、家でもよく練習するようにと言われています。きびきびとした中にも身体全体をつかったしなやかな動きが求められます。ラジオ体操 3 日目からはカメラを構えず体操を一緒にしたのですが、長年知っているはずのラジオ体操って、簡単な動きに見えてきちんとやると実はなかなか高度でハードなものだと実感…。

子どもリーダー達の体操は、まだ発展途上のようですが、夏の朝の日差しと空気感、長い手足を動かし真剣に体操している子ども達の姿は眩しく輝いて見えて、何だか感動ものでした。

きっと、回を重ねるごとにさらに上手に、そして頼もしく変わっていくのではないかと期待しています。

ベイタウンのラジオ体操が始まったのは平成 7 年で（ベイタウンラジオ体操の詳しい経緯はベイタウンニュース Vol.183:2012 年 8 月号をご参照ください）、今年は 20 年目の節目の年となります。

夏休み後半も 8 月 24 日 (月) ～ 30 日 (日) の 7 日間、打瀬小学校校庭で開催されます。土日もありますので、夏休み終盤の思い出にご家族でいかがですか。ラジオ体操カードを持っていなくても、当日会場でもらえますので、小さいお子さんや大人の方もぜひどうぞ。

リーダー特訓

夏休みラジオ体操の子どもリーダーたちは毎年打瀬の小学校 3 校の 6 年生がつとめます。リーダーは夏休み前の 6 月最後の週から毎週土曜日の早朝 6:00 に海浜打瀬小のピロティに集まって練習をします。

最初からきれいな動きができる子もいますが、ほとんどの子は音楽が聞こえてもどの運動か分からないという状態です。これをラジオ体操初日の 7/20 頃までに仕上げなければいけません。

子どもたちが最初につまづくのが左右逆の動きをすること。リーダーは参加者と対面で向かい合って体操をするので、鏡を見るように左右逆の動きをしなければいけません。

それができたら次は個々の運動を繰り返し細かく直していきます。腕をまっすぐ伸ばす、ある運動のときは指先は伸ばすけれども、運動によっては握り拳にする場合もあります。こんな細かいところまでできるようになって、初めて朝礼台に上ってみんなの前で体操することを許されます。

「流しそうめん」の会

先月号でお知らせした「流しそうめん」の会（主催：千葉市社会福祉協議会打瀬地区部会）が７月12日午前11時からコア横の広場で開かれた。当日は天候に恵まれ、予想以上の来場者（なんと170人以上！）が参加。子どもたちの歓声が絶えることなく、賑やかで楽しい夏の記憶の１ページとなった。　【小原】

流しそうめんのスタートは、「堰き止めなしねー」というルール説明の直後。そうめんがするすると流れると、「わー！」「こんなの初めて！」と歓声が上がった。しかしその後はみんな真剣そのもの。流れてきたためんを逃すまいと必死な顔。最後の受けザルのところで待ちうけている男の子が樋から落ちためんをすくって、「こんなラクなとこないや」という言葉に爆笑。後半では、樋の角度を緩くしたり、めんを樋の途中から流すなど、皆が楽しめるように進化していった。

会場のベイタウン・コア調理室前から横の広場では、流しそうめんだけでなく、できたてポップコーンやスーパーボールすくい、かき氷、竹トンボ、シャボン玉など体験して楽しいコーナーが用意され、食べ終わった子どもたちは思い思いに遊んでいた。

かき氷は、最初に氷をもらって、自分で氷をかくシステム。テーブルに家庭用のかき氷機が５，６台用意してあったのだが、小さい子はできない。そんなとき、ちょっと大きい小学生が手伝ってあげたり、お父さんも一役買ったりで大賑わい。特に頑張っていたのは、このイベントの手伝いを買って出てくれた打瀬中２年の中田さんだ。かき氷コーナー担当として、待っている人を並ぶよう誘導したり、小さい子のためにかき氷機を必死に回したりする姿は、頼もしさを感じた。

小さいお子さん連れのお母さんは、「日頃自分も働いていてあまり遊んでやれないので、一緒に何かできるところがあると聞いてこのイベントに参加しました」。横にいた子どもも「流しそうめんも楽しかったしシャボン玉もきれい」と満足の様子。

責任者の山口さんに話を聞いた。「ベイタウンで子育てをしていて、気軽に子どもが集まってふれあう場が少ないのが気になっていました。そんな場を提供したいと思い、このイベントを企画しました」。当初80人だった予想をはるかに超える来場者数は、そんな場の必要を物語っている。

樋の準備は一週間前に見浜園から竹を譲ってもらったところから始まった。フシとり、ヤスリがけ。大鍋で汗をかきながらそうめんを茹でて水洗い。そんな大変な作業の疲れは子どもたちの喜ぶ顔で癒されただろう。これからも、親子がふれあえ子どもが伸び伸び遊べるイベントが企画されているとのこと。子育て中の皆さん、是非参加してみてはいかがだろうか。

公民館を考える会の６月の活動

考える会の活動。６月はベイタウン・コアの設備や備品の管理状況の調査について大きな進展がありました。

ベイタウン・コアには他地区の公民館にはない設備や高規格の備品が多くあり、これが公民館の維持予算だけでは十分な状態を保てない大きな要因になっています。例えばコア・ホールのイスや天井の照明などは、もともと他の公民館にはホールというものがないのですから、その維持管理の費用を公民館に一般に出される予算で賄おうということに無理があります。

このため考える会では今後、基礎的な公民館予算で管理できる部分と、ベイタウン・コア独自の高規格な部分のギャップを住民の寄付や収益、ボランティアで補い、将来的に維持できる仕組みをつくることを活動の目的にしています。

そのためには現在コアの設備や備品がどのように管理されているのかを知ることがとても重要です。これらの状況を調べるため、考える会ではこの分野を専門に考えるグループをつくり、６月から活動を始めました。

グループが最初に始めたのは千葉市に直接行って担当の方と膝詰めで話し、管理状況を記した書類を見せてもらい、今後の調査に協力をお願いすることでした。最初は会や活動の目的を説明することから始めましたが、こちらが千葉市生涯学習課との話し合いの中で活動していることを説明すると担当の方は非常に丁寧に説明してくれ、今後協力してコアの維持管理を行うことを確認できました。

この作業を同じように打瀬公民館の館長さんと、打瀬公民館の予算を管理する中核館の稲浜公民館でも行いました。３カ所を回ったのは管理する設備や備品の値段や性格により分担が分かれているためで、少し手間がかかりましたが、どちらの訪問先でもベイタウン・コアの特殊性を理解してくれ、今後住民側と行政側がどういう分担で協力していけばよいかを話し合う環境は整ったと思います。

実際に３つの行政機関を回った感想ですが、どの担当の方もベイタウン・コアの特殊性については認識しており、それを公民館という枠の中で運営することの難しさを感じている様子でした。行政の問題は主に予算の不足という財政的な部分にあるので、これを住民側が協力することができれば解決できる部分は大きいと思いました。

今後はまず実際の備品管理の調査を住民がボランティアで行うことからはじめますが、できるだけ多くの方が力を出し合って、よい結果につなげられればと思います。皆様のご協力をお願いします。

コアの運営を考える会の次の会合は
日時：８月２日（日）午前10：00より
場所：ベイタウン・コア　講習室
で開催します。　【松村】

これはなんでしょう？

ラジオ体操会場の海浜打瀬小のそばにはエコパークがあります。草木の大好きな体操会代表の鎌田さんはここをよく訪れます。今日は面白いものがあると行って体操の後にエコパークに連れて行ってくれました。それが写真。

これは何でしょう。「へちま？」、「ひょうたん？」どちらもちがいます。実はこれは「きゅうり」。それも僕たちが食べているものと同じタネからできたものです。

エコパークを管理しているおじさんは丹精込めてつくった植物を「半分はここに来る鳥や虫のために残しておく」のだそうで、収穫後もこのキュウリのように「なりゆき任せ」になっているものがあるのです。それがそのまま大きくなって、最後には人間の腕よりも太いほどに成長したものだそうです。　【松村】

ベイタウン・クリーン作戦

7月22日、ラジオ体操終了後の午前6:50頃から「ベイタウン・クリーン作戦」が行われました。このイベントはベイタウンのゴミ拾い運動をラジオ体操で集まった子どもや大人でやろうというもので、昨年もラジオ体操終了後に行われ今年で2回目の開催になります。呼びかけたのは「子ども円卓会議」で、数日前に打瀬中学校美術部がデザインしたチラシが各戸に配布されていたのでご存じの方も多かったと思います。

当日は海浜打瀬小学校で学校が用意したゴミ拾いのための袋と金バサミをラジオ体操参加者に配布し、帰り道でゴミを拾ってもらおうという試みでした。

ラジオ体操の帰り道で子どもたちはゴミを見つけようと植え込みの中までチェックしている様子。友達同士で学校公認の「道草」をする気分で楽しそうでした。約1000人ほどもの参加者の大半が一度にゴミ袋を持って動くので、会場周辺の道路はすぐにクリーンになりました。これが毎日続けばいいのですが。

クリーン作戦は夏休み期間中に各小学校で合計6回行われます。8月は25日、28日に打瀬小学校で同じくラジオ体操終了後に行われます。

【松村】

ベイタウンの街灯が変わる（？）

マリーンデッキの自転車通行問題の取材で7/12に自治会連合会に出席したところ、ベイタウンの街灯について改修の話が出ていることを知りました。ベイタウンの街灯はよく知られているように周囲の街の一般的な街灯より遙かに高規格なものを使っていますが、老朽化してきたので改修をという話のようです。

街灯を設置したのは千葉県企業庁ですが、今道路の管理は千葉市に移管され、管理も千葉市が行っています。今回はその改修の内容について自治会連合会と千葉市が話し合いを行っているようでした。

千葉市に予算がないのはよく分かりますが、街灯はベイタウンの景観を構成する要素のうちでも大きなものです。自治会連合会ではベイタウン協議会にもデザイン面での検討を依頼して検討しています。

街灯改修の件については今後取材して経過をお知らせしたいと思います。 **【松村】**

ベイタウンニュースの配布にご協力ください

ベイタウンニュースの配布をしてくださるボランティアが不足しています。毎月1回土曜日の午前中の時間をお貸しいただければ大変助かります。

お問合せ：松村　TEL：211-6853 、mazmbtn@gmail.com

ベイタウンできごとろじー　2015年7月

7月5日、9日　マリーンデッキ自転車通行について自治会が公聴会
7月12日　社会福祉協議会が流しそうめん。
7月14日　三井アウトレットパーク幕張がグレードアップオープン
7月20日　ラジオ体操はじまる
7月22日　ベイタウン・クリーン作戦はじまる

8月のコア・イベント

寺子屋工作ランド

「ぶんぶんごま」
日時：8月22日　　第4土曜日　　9：30～11:30
場所：ベイタウン・コア工芸室
持ってくるもの：はさみ、鉛筆、クレヨン、色紙、サインペンなど
参加費：50円（保険料）
保護者の方も参加されるときは材料費50円を負担いただければ幸いです。

第141回ファツィオリの会（コア文化振興基金後援事業）

日時：8月23日（日）9：30～11：30
場所：ベイタウン・コア音楽ホール
フルコンサートピアノ「ファツィオリ」の演奏や他の楽器の演奏、声楽や合唱などに使って頂くことができます。非公開でのご利用ご希望のときは、ご相談下さい。定員になり次第締め切らせていただきます。聴きに来て頂くのは、自由です。
最新の情報はhttp://www.baytown.ne.jp/core/をご覧ください。
申込締切：8月16日（日）
申込先：TEL&FAX　211-0273（阿曽）

わくわくおはなし会　8月の常設おはなし会はお休みです。

わくわくおはなし会　8月の常設おはなし会は、おやすみです。
次回9月のおはなし会は、
日時：9月19日　　第3土曜日　　10：30から
場所：ベイタウン・コア講習室
予約不要　途中入場できます。
年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どももぜひきてね！
予約は不要です。読み手も募集中、見学大歓迎
ブログ更新中・見てね＊＊ http://waku.makusta.jp/ ＊＊
お問合せ先：chibawaku2@freeml.com

打瀬分館　子ども読書まつり
「絵本の音楽会～揚琴と絵本の出会い～」

今年もコア音楽ホールで絵本の音楽会を開催します。中国の民族楽器・揚琴（ようきん）の音色を聴きながら、絵本やゲームなどを楽しみます。

出演：
揚琴奏者　郭敏（グォ ミン）氏
絵本作家　きむらゆういち氏
日時：10月18日（日）　午前10:00 ～ 12:00
場所：打瀬公民館ホール（コア音楽ホール）
対象：4歳児から大人
参加費：無料
申し込み：9月1日より、直接来館ほかで受付開始予定。
詳細は、9月号でお知らせします。
お問い合わせ　打瀬分館　TEL：272-4646

打瀬中学校の部活動取材第２弾：バドミントン部

打瀬中のバドミントン部は，男女合計約 100 名と最大規模の部活動です。男子は今年春の県大会で団体３位，個人ベスト８の成績を残したとのこと。暑い夏も体育館の窓を閉め切って奮闘する学生の頑張りを取材してきました。 【加藤】

この日、バドミントン部が体育館を使えるのは 16 時 45 分からの約 1 時間。平日は、バレー部やバスケ部と交替で利用するため限られた練習時間を有効活用するため、交替時間前から大勢が入り口に集まって待機しています。

バレー部の練習が終了すると、一斉に体育館に入り、ポールを立て、ネットを張って、直ぐに練習にとりかかります。各自の役割が確立されており、てきぱきと準備する様子は、見ていて気持ちがいいです。

コート内でのフットワーク、基礎打ち（ハイクリヤー、スマッシュなどのショット種別練習）、パターン練習（コート内の決められた一カ所に向かって様々な場所から打ち返す練習、ダブルスの連携の練習）、試合形式など、予め決められたメニューに従ってどんどん練習は進みます。正式コート 4 面と小さめコート 2 面しかないため、コート外の空きスペースや舞台も利用します。

練習メニューは、部員達が自主的に考え、決めているそうです（驚）。

17 時 35 分になると片付けと掃除を始め、40 分にはバスケ部に体育館を明け渡します。最後まできびきび動きます。

体育館練習終了後、男子部の宮川キャプテンに夏の大会に向けての意気込みを伺うと、「個人戦は県のベスト 4 に入ることです。団体でも県 3 位以内に入って、関東大会に出場したいです。」とのこと。頼もしい！

女子部も林キャプテンを中心に、大勢の部員が元気よく質問に答えてくれました。目標は「Do our Best ！」女子部は、キャプテンの他にも「総監督（天皇？）」「虫取り部長」「宴会部長」など、「個性の強すぎる（林キャプテン弁）」部員達をまとめるために幹部が存在するとのこと。代々たすきが受け継がれているそうです。練習はキツいことも多いと思いますが、明るく楽しく取り組んでいる姿が印象的でした。

体育館での練習を終えた後は、外で体力強化。短距離の往復ダッシュを次々にこなします。「周りに負けんなよ！」「○○追いつけ！」部員同士で威勢良く声を掛け合いながら、時間を惜しんで汗を流します。

夏の大会での活躍を祈っています。頑張れ、若き選手達！

マリーンデッキの自転車通行問題について

ベイタウンニュースでも何度か書いたマリーンデッキの自転車通行問題です。7 月 12 日（日）に自治会連合会の定例会があり、この問題が話し合われるというので傍聴してきました。

この問題はこの定例会に先立つ 5 日と 9 日に連合会主催で「公聴会」が開かれ、一般の方の意見を聞いていました。今回の定例会では各番街の代表委員の意見を聞き、それを公聴会で得た意見と合わせて今後の対応を検討するというものでした。

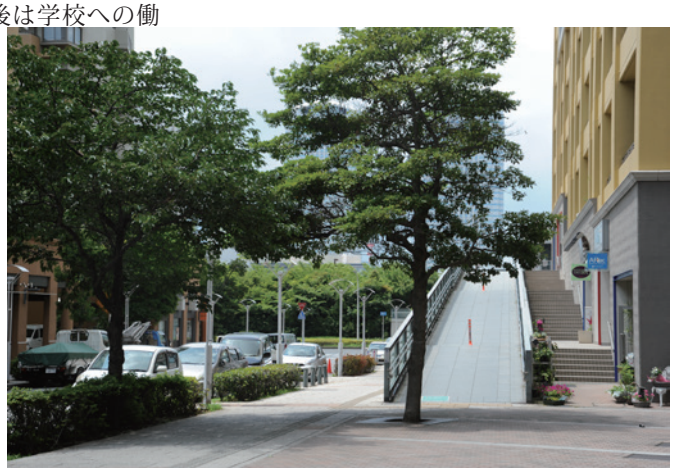
結論からいうと、マリーンデッキでの自転車通行を規制するような設置物は当面は作らないということに落ち着きました。これは公聴会で一般の方から景観や設置したことによる新たな事故の発生、あるいは「規制」という方法への反発などの意見が強く出た結果です。

僕は公聴会は平日の 9 日のみ出席しました。一般参加者は 6 人ほどと少数でしたが設置物を置くことには全員が反対という結果でした。

11 番街にお住まいの方は、「新しく侵入防止柵のような構造物を設置して、景観を壊すと同時にかえって柵にぶつかるなどの事故が起きる危険性がある。学校と協力して自転車走行時の注意を喚起するなどの努力をするべきだ」と語り、また CPW にお住まいの方は「ずっとデッキを見下ろせる場所に住んでいるが、事故よりもむしろ最近通行量が少なくなっているの方が気にかかる。自転車を通りにくくすれば更に通る人は少なくなり、街のメインエントランスとしてのデッキの価値はなくなる。ハードではなく注意し合うなどソフトの対策に力を入れるのが良い」と語っていました。

またこれに先だって行われた 5 日（日）の公聴会でも 20 人ほどの一般参加者があり、ほぼ全員が新に設置物を作ることに慎重という意見だったそうです。

自治会連合会としては今後は学校への働きかけも含め、住民のみなさんにマリーンデッキを自転車で通行する際に注意をしてもらうよう喚起する広報活動に力を入れるということになりました。

少し気になったのは今回の問題に対し、ほとんどの番街の代表委員から、「番街で意見を聞いたところ反対も賛成も意見はなかった」という答でした。どうも「興味なし」ということのように思えます。もし本当に一般住民の方が安全と景観の二者択一という大事な問題に「興味なし」とするなら、むしろこちらの方が大変な問題です。ベイタウンの共有財産のうち「景観」は最大の財産のひとつと言えますが、このことに住民がなんら興味を持たないなら早晩我々はこの財産を失うことになるでしょう。

問題はむしろ各番街でこういう問題が起きていることが十分に広報され、住民の間で認識されていないのではないかということだと思います。担当の役員さんは連合会でのやりとりをご自分の自治会に持ち帰りはしていると思いますが、その後各番街で十分に議論されているのか、あるいは一般の住民に対して広報し意見を吸い上げるなどの作業をしているのかが気になります。